

# きずな

公益社団法人 つくば市シルバー人材センター  
健康で 楽しく 幸せに

2023.04

Vol.042



## 目次

- 対談 五十嵐市長と小杉理事長
- 事業実績から見えてくる風景
- 各部会・委員会の活動
- 独自事業
- 女性活躍委員会
- ボランティア活動
- 冬季剪定講習会が3年ぶりに開催
- 剪定・草刈作業
- 趣味 そば打ち
- ウサギのはなし
- 歴史に学ぶ ベトナム

## 〈市長との対談が行われました〉

2月22日(水)

午後、市長と当センターとの対談が行われました。対談には正副理事長および事務局長が出席しました。この対談は、コロナ禍あるいは諸般の理由で延び延びとなりましたが、昨年8月に続き2回目の実施となりました。



対談は、一問一答方式で行われましたが、まともは以下のように関連する項目を統合しました。

理事長：昨年12月、市長、理事長対談の要望事項5項目(本稿末に記載)に対する回答の協力を感謝の意を示します。また、「すけっとくん」事業については、全面的にセンターで対応していましたが、ご依頼に対応しきれない状況もあり一般の事業者に入っていただく等、高齢福祉課にも調整していただきました。市長：「すけっとくん」の件については承知しています。センターの活動への需要が大変高いと聞いています。

理事長：全国のシルバー人材センターが主体となって、会員100万人の運動を展開していますが、コロナ禍で67万人と伸び悩んでいます。我がセンターも3年前には700人を超えていましたが、現在650人と停滞しています。コロナ禍の動向にもよりますが現在、

会員増加を図っています。このためにも事業拡大が必要であり、ご協力をお願いします。

市長：元気な高齢者が働くということは大切なことで、市では高齢者が外に出られるような政策として電動アシスト自転車を購入される方に補助金を出す予定です。高額な電動アシスト自転車を少ない金額で買えるため、移動手段がないシルバー会員もこれを利用して仕事に行くことが可能になると考えています。補助を受けるには講習の受講が必要となりますが、3輪もあるので活用していただきたいです。また、文化事業にも割引制度を考えているので利用していただければと思います。

理事長：現在91歳の会員が現役として働いていて、高齢者は「働くから元気」との側面もあり、高齢者でも可能な仕事の確保が求められています。

市長：高齢者が働いて元気でいてくださるということが市全体としても重要なことであり、市としても引き続き可能なサポートをしていきたいと考えています。

理事長：洞峰公園の県から市への移管問題が行っていますが、市へ移管になった場合にはシルバーでも何か協力できることがあればと思います。

市長：無償譲渡を受ける方向で県と調整中です。これからどうするかを皆様と検討していきます。理事長：「障子・襖張り」事業における現行作業場の耐震性に問題があり、移転先を探していただいています。

市長：豊里窓口センターの一部の部屋を貸与することになりました。4月から利用していただく予定です。

理事長：傾聴ボランティア事業にシルバーが参加できるようにしていただきたいです。

市長：無償のボランティアでの実施を考えています。研修、講習会も開くので、是非シルバー会員の皆さまにもご協力いただければと思います。

## 〈対談に関する要望事項〉

今回の対談以前に、センターからすでいくつかの要望事項を市側に提出しており、それに対する回答をいただいております。今回の対談内容と合わせて、お読みいただければ参考になるかと思えます。

要望1 会員の高齢化に伴う「後継者の育成」として各種「技能講習会」の応援を市に願っています。

要望2 高齢者雇用対策におけるセンターの役割を増給するためには、女性会員に焦点を合わせ、魅力あるセンターづくりが必要です。市として女性会員の就業拡大にご尽力をお願いいたします。

回答1・2 性別に関わらず個人個人の経験を活かし活躍していくことは、今後ますます求められていくものと思われれます。広報つくばへの情報掲載や区会回覧等、引き続き活動の支援を行っていきたくと考えています。

要望3 市から発注される事業が減少しています。高齢者でも可能な業務の増加に向けた検討の場を、設けていただくとお願いいたします。

回答3 会員の皆様には、施設の管理業務や清掃業務等、様々な面で市に貢献していただいております。就業機会の増加につながるよう、関係部署への情報提供を行っていきたく思います。

(注) きずなの中では「つくば市シルバー人材センター」を「センター」と称する場合があります。

要望4 当センターでは、SDGsの一環として、80歳を超えても活躍できる就業環境の創出として、新規事業を検討中です。新規事業をすすめるに当たって、市のご指導・ご協力をお願いいたします。

回答4 シルバー人材センターから新規事業の計画内容が提出された際には、関係各課と調整し、新規事業実施に向けて検討及び協力していきたいと考えています。

要望5 当センターも、空き家見回り対策事業を開始し、すでに数件の受注引き合いがあります。市と当センターで、「空き家管理の協定」を結ばないか検討していただくようお願いいたします。

回答5 市が空き家対策を実施した当初より、空き家所有者等から空き家の除草・庭木剪定の相談があった場合には、シルバー人材センター等を案内してきました。また、シルバー人材センターが実施している「空き家見守りサービス」のチラシを、空き家所有者等からの問い合わせ時や空家無料相談会でお渡しするほか、空家所有者等へ郵送する空家等適正管理啓発冊子に同封し、案内をしているところです。協定を結ばなくても、このように連携を図らせていただいておりますので、現状のとおり、ご協力いただきたいと考えています。

### 〈事業実績から見えてくる風景〉

コロナ禍は、ここに来て一段落といった状況になっていますが、コロナ禍によってこれまでの慣習や生活を変え、社会やその活動に大きな変化をもたらしました。

この3年間、医療体制の混乱、人の移動や集会が規制され、マスクの装着や遮蔽板越しでの会話、冠婚・葬祭の簡素化、リモートワークなどが進行しました。センターとしても理事会や委員会、研修会、新入会員の募集の中止、就業先の休業や閉館、さらには業務受注の減少などにより会員数、事業実績などに大きく影響しました。

そこで、直近5年間の会員数と事業実績の推移をまとめ(表1)、ここから見えてくるものを考察してみました。まず、会員数はコロナ禍の前の令和元年度末6779人となりましたが、令和3年度末には619人と2年で60人の大幅減少となりました。事業実績には、請負・委任、派遣および独自事業の全てがほぼ順調に増加していました。しかし、コロナ禍の令和2年度、3年度になっていずれの事業とも急激に実績が低下し、特に独自事業ではほぼ50%になっています。これはコロナ禍によって派遣先の休業、学校の閉鎖や除草剪定作業などの依頼の減少によるものと考えます。なお、令和元年度から急激に請負・委託事業が減少し、派遣が増えたのは、厚生労働省の通達に伴う業務内容の見直しによってこれまで請負・委任事業として行っていた業務を派遣事業に移行したものです。令和4年度までには移行が終了しましたが、この際、一部の企業、職場において契約の更新ができない事態も発生し、実績や受注件数の減少になりました。

令和4年度の事業実績は、1月までの途中経過から判断し、独自事業では回復の傾向がありますが、請負・委託、派遣事業は最終的に前年度と大きく変わらないと予想します。したがってセンター運営において大幅な経費増加がない

限り欠損になることはないと考えます。しかし、このような低空飛行の原因はコロナ禍にあるにしても早急に脱却する必要があります。少なくともコロナ以前の事業実績に回復させる必要があります。このためには、会員数の増加を図り、派遣先の確保などが重要な課題です。特に、請負・委託事業の中心としての草刈り、剪定、ふすま張り作業者の高齢化による能率の低下、後継者の確保も喫緊の問題です。表2に草刈り、剪定作業者の人数と年齢をコロナの前後で比較してみました。人数の増加がなく、作業者の入れ替わりも少なく、高齢化が一段と進んでいます。事業実績の低下は、コロナ禍だけでなく、高齢化に伴う業務効率の低下からも起きています。請負・委任事業は、地域に密着した大切な業務、各班員の頑張りや敬意を表すと同時に、センター一体となって知恵を出し合い、事業実績を回復させ、さらなる発展を期待します。また、このコロナ禍を契機にセンターの運営管理を含め、全てを見直す必要があると考えます。(広報 尾台昌治)

直近5年間における会員数および事業実績の推移

	会員数(人)			請負・委任	派遣	独自(円)		件数
	男性	女性	合計	(円)	(円)	自転車	きずな	
平成29年度	467	167	634	316,569,073	30,401,093	8,987,072	4,962	
平成30年度	467	176	643	272,454,486	68,588,053	11,547,029	4,609	
令和元年度	481	198	679	252,324,842	83,292,645	12,053,244	4,390	
令和2年度	450	194	644	156,801,578	135,135,949	6,282,761	3,755	
令和3年度	414	205	619	113,202,379	185,812,615	7,890,154	3,105	
令和4年度*	423	208	631	104,427,934	156,216,133	7,700,748	—	

\*は1月までの暫定数値

## 〈センターの活動報告〉

### 【理事会】

12月、1月、2月、第7回、8回、9回の理事会を開催し、諸案件が報告、協議されました。なお、当面、執行部会を開催しないで、



理事会開催する事にしました。2月迄の事業実績ですが、ゴミ処分場の復活により、処分費が大幅に好転したことにより、対前年比増益が見込まれ順調に推移しております。また、各部会、委員会等の報告並びにそれぞれの承認事項について協議されました。

- その他の承認事項
- (1) 理事の追加募集（4月面接予定）
  - (2) 4月、1名の職員採用について
  - (3) 新入会員紹介制度の開始（4月）

### 【事業部会】

#### 令和5年度 事業部会の方向性について

委任・請負事業の主体となる剪定・草刈班等の若返りと作業全体の効率化を図ることが、喫緊の課題となっています。

後継者育成問題は、コロナ禍により講習会や審査会の中止のため、停滞し事業存続の危機に直面しています。

年々高齢化は進み、新規就労者の入会が見込めない中、会員数は減少し作業量は増加傾向にあります。この課題を解決するため、作業エリアを見直し会員の集約統合を図り作業の効率化

を図ります。

コロナ禍で剪定・草刈作業の研修や技術検定審査会が中止になる中、ランク制度を廃止し簡素化します。

研修会は年一回程度実施し、スキルアップを図るとともに、安全対策として事故を予防する啓発活動と会員・事務局の連携体制を徹底して事故防止に務めます。

最後に会員の健康と安全を確保し、健全に楽しく就業できる環境を整えていきたいと考えます。（事業部会長 酒井 清貴）

### 【安全委員会】

「弘法筆を選ばず」とは良く使われる言葉ですが一般人にとっては至難の技です。むしろ腕の良い職人ほど質の良い道具を使い日頃から良く手入れをしているのではないのでしょうか。そして自身の体調管理にもしっかりとケアしているはず。安全作業の準備を整えることはゼロ無災害達成の為に一番重要な事なのです。令和5年度は安全作業の第一歩として「準備万端、初心忘るべからず」「注意一秒、ケガ一生」の精神でいこうではありませんか。安全作業は自分自身そして家族の為です。それが実践できれば周囲の方々にも波及するのですから。一日、「安全に」（安全委員長 張元 政治）

### 【総務部会】

令和5年度の総務部会は、基本的には中期事業計画に則り進めて行きたいと考えています。コロナ制限も大幅に緩和される情勢のなか、セ

ンターとして着手すべきことは、分科会を中心に会員増強に取り組むこと。就業開拓も重要な問題であり、事業部会、統括部会との連携プレーで行えば、より効果的なものが期待されます。センターの活動では、SDGsを踏まえた社会貢献性が期待されます。講習会、研修会を實行して会員の質をたかめることと、忘れがちな福利厚生面で強化、充実を心がけます。（土田総務部会長報告より抜粋）

### 【地区統括部会】

#### 令和5年度地区統括部会の方向性

a. 各地区それぞれの活性の促進、b. 全地区の一体感の醸成、c. 独自事業の企画と実践の3つを柱にしたい。現在も趣向を凝らしたイベントを各地区で実施し会員の交流を活性化していきますが、さらにこれを促進したい。スポーツを合同して開催したり、一緒に旅行したり、会員全体で何かをしたい。そして、あおぞら市場のような小さな起業を企画して、配分金は少ないけれど自分のペースで働いて、自主自立、生きがい就業というSCの理念に合致した働き方を作り出していきたい。（寺田地区統括部会長）



## 〈独自事業〉

「子育て支援ルームきずな」

支援ルームを開所してから10年になります。ある病院で小さい子供を連れてきた女性と出会ったことが、支援ルームを開所したきっかけです。仕事をしているが、子供を預けることができずに困っていますと、話を聞いたことがきっかけとなり、色々なところに相談して、開所になりました。現在5名の有資格者（コーデイネーター）と2名の会員が木曜日を除く日に朝9時から17時まで満1歳から就学前の児童を預かっています。平均月に45名から利用者がいます。小さい子供を預かるのは大変ですが、安心して預かり出来るように頑張っています。（久保田）



## 「自転車部」

令和5年4月の筑波大学での、新入生向けに販売するリサイクル自転車の再生作業について報告します。1月現在のリサイクル自転車の備蓄台数は約40台。3月末迄に80台位確保しな

いと新入生に行き渡らないと思います。土日を除く日に2人体制で再生作業をしています。1台毎に時間をかけて不良箇所を直し、綺麗な自転車に仕上げているために、数量が上がりますが、1人1日1台を目標としています。3日で2台の再生です。これから、卒業生の自転車の回収作業も進みますので、手間のかからない自転車も、多くなると思いますので、再生作業が進みます。作業小屋ができたために、寒さ、雨、雪などの影響を受けずに作業が出来る喜びがあります。自転車部一同センターに感謝です。（久保田）



## 〈女性活躍委員会〉

3月8日（水曜日）参加者10名で会議を開催しました。今年度の予算は04年と同じで、年6回開催します。活動は、女性会員限定のセミナーを、2回11月と2月に予定。祭りつくばに向けて、布ぞうりや手差し等の小物作り。幼稚園や保育所に寄付する小物作り。毎月第4週の水曜

## 〈ボランティア活動〉

アダプト・ア・パークについての雰囲気

令和4年12月17日、年の瀬が押し迫る頃、太陽光が朝の木々に差し込む日和に、豊里地区会員10名（男性…5名、女性…5名）が、「つくばテクノパーク豊里」内の台山公園を手分けして、空き缶・空き瓶・チリ紙etc.を、ゴミの多さに目を白黒させながら時間を忘れる程必死にゴミを追い集めた。終ってから、お互いの顔を見合わせる『私達よくやったなあ』と心からの感動と、和み、安堵の顔色と共に平常心にもどって、また次回に会いましょうねと言って散会した。（土田広報委員）



日に、グラントゴルフ、コンテナガーデンも予定しています。写真は小物作りの場面です。



## 〈剪定・草刈〉

まだまだ続くコロナ禍。

各種講習会の活動が中止に至っている今日、冬季剪定講習会が3年ぶりに開催され皆様方の協力の元、安全及び技能面の向上を目的とした講習会が講師を招き予定通りできました。会員皆様方には寒い中ご苦勞様でした。大変有意義な講習会が出来たことと思われれます。

今後は事業部の中で技術向上委員会を立ち上げ活動してまいります。

これからも前向きに進む覚悟を心に刻み、自分磨きを続け今年も楽しいプランを立て心と希望を持ち続けていきましょう。(ランク審査委員長 坂本 二郎)

### 「冬季剪定講習会再開」(追加報告)

令和5年1月24日～26日市内で行われた待望の講習会には、外部から招聘した経験豊かな4人の講師陣と、四十名をこす受講者たちで、剪定作業にたずさわってきたベテランから初心者までを



ふくむ会員たちが参加しました。1月24日大穂交流センター会場での机上講習では、講師はおなじみの川原田先生。1月25日～26日の二日間は、市内にある広大な中島会員宅の敷地を利用して、三人の講師による実技講習です。

幸いにも大寒波の直撃も事故もなく、無事に三日間の講習を終えることができました。剪定の普及活動に意欲的な講師の方たちが強調した「植物は生きものであることをよく理解して、生きていく環境を考えて育ててあげてほしい」ということが印象的でした。剪定・草刈に関心のある方は、ぜひ事務局までお問い合わせください。(広報 山内)

### 「剪定草刈り作業」

茎崎地区の宝陽台団地ではセンター会員の活動をよく見かけます。今年早々、「草刈除草(全地区)①」所属の会員三名が、安全のために飛散防止のネットを使用しながら、民家で枝木や雑草の処理作業に取りかかっていました。この作業では、お客さまの要望により、刈り取った雑草などを処分場まで持ちこむ場合があります。複数の人数が必要とされるのが一般的です。草刈り除草は、センターの主要な仕事の二つです。ここ数年、慢性的な人手不足が続いていますが、お客様のご要望に応えようと、受注や作業体制や人員配置など



を工夫して、がんばっているところです。写真は、左から早瀬、直井、薬師寺の三会員で、撮影のためにマスクを外していただきました。



## 〈趣味〉

### 「食は楽し そば打ち」

食の話は楽しい。愛好家が多いそば打ちとなれば話は盛り上がりです。趣味のそば打ちが昂じて、さる団体の検定試験で最高位の五段位まで取得した人が細淵賢三氏。元会員・理事。そば打ち歴30年の経験をもち、現在はそば打ちの実演などで大活躍中。ご自宅でのそば打ちを取材させていただきました。流儀は、江戸風、麵棒三本を使用します。

(1) 10人前の材料1.2kg (そば粉1kg、つなぎ粉0.2kg)。そば粉や気候条件の見極



(5)



(3)



(1)



数々の段位認定証



(4)



(2)

めが大切です。つづいて木鉢での水回しから、  
 (2) 揉み、延し (3) 丸出し、(4) 四つ出し、  
 (5) 包丁  
 (本延し) の工程。意外に難しいのが (5) 包丁  
 です。要した時間は40分間。あとは、麵を熱湯  
 で茹で始めてから揚げるまで40秒間 (太麵では  
 50秒間) がミソ。  
 (故郷や酒はあしくも蕎麦の花 蕪村) (山内)

### 「ウサギの話」

今年の干支は卯、うさぎ年

中国伝来の十二支は、植物が循環する様  
 を表し、十二支4番目の「卯」は茎や葉が  
 大きくなる様子を表し、芽を出した植物の  
 茎、葉が目に見えて大きく成長する年だと  
 言われています。

「うさぎ」は、足が速く、飛び跳ねるこ  
 とから飛躍するという象徴、さらに、たく  
 さんの子を産むことから豊穰、子孫繁栄の  
 シンボルとなっています。動物の意なら  
 「兎」、生物的には「ウサギ」と表記されます。  
 白い体毛に赤い目した日本白色種という品  
 種がウサギのイメージとして定着し、頭数  
 を「羽」数えます。また、生物的に珍しい  
 繁殖をし、交尾の際、雄ウサギが後ろ脚で  
 床を蹴り、その『トントン』とする音に刺  
 激され、排卵が起こります。

昔から兎にまつわることわざや名称は多  
 く、今もペットとして飼われ、身近な動物  
 として親しまれています。センターとして  
 も「卯」と「ウサギ」にあやかり、会員、  
 仕事が急増し、コロナ禍の低迷から脱兎の  
 ごとく駆け抜け、業績が飛躍的に伸び、一  
 気に挽回する年となることを願っています。

### 「日本の古典」

『梁塵秘抄』

『梁塵秘抄』は、平安鎌倉時代、当時  
 の上下の様々な階層の人々に愛された歌  
 謡「今様」を、大ファンである後白河院  
 (1127〜1192) が撰集したもので、  
 一部分がいまも伝わっています。  
 よく知られた歌をひとつ。

「遊びをせんやうまれけむ 戯れせ  
 んとや生まれけん 遊ぶ子どもの声聞け  
 ば わが身さえこそ揺るがるれ」(巻第二  
 359) 意は、(遊びをしたくて生まれて  
 きたのか、何かふざけごとをしたくて生ま  
 れてきたのか、無心に遊ぶ子どもの声を聞  
 いていると、自分までが体をゆすりたくな  
 る)。わが身とは、いろいろな境遇にある  
 人を意味する説  
 もあるようです  
 が、素直に解釈  
 して、子どもと  
 いうものは、い  
 つも大人の心を  
 ゆり動かすもの  
 だと。



〈歴史の学び〉

ベトナム 大国の干渉に挑戦

近世には列強から侵略された大国中国ですが、ベトナムをふくむ東南および東アジア地域の国々をながく支配あるいは干渉（一部は朝貢国として）した負の歴史があります。1975年対米戦争で勝利したものの国力が疲弊していた当時のベトナムに、1979年、同じ社会主義国である中国が「懲罰」と称して侵略をはじめました。カンボジア問題で火がついた戦争ですが、ベトナムにとって国の存亡にかかわる事態でした。

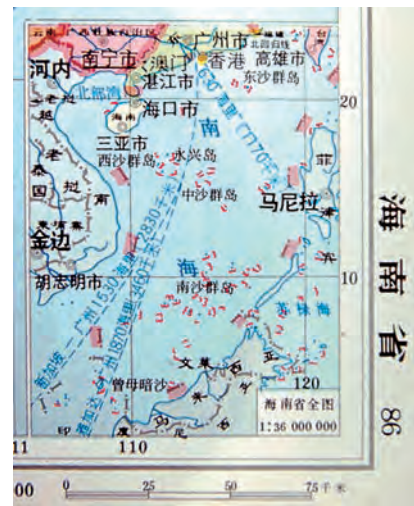
ベトナムは古来から中国とは数十回もの大きな戦争を経験しているといわれ、太平洋戦争中には日本軍もベトナムに進駐しています。ベトナム悲願の独立は、民族主義運動の指導者ホー・チ・ミン氏が1945年ベトナム民主共和国の独立を宣言し、1954年ベトナム北部のディエンビエンフー包囲戦でフランス軍を殲滅して、事実上の北独立を勝ち取ったのです。このときは中ソとの連携が役立ったようですが、1950年代から激化した中ソ間の社会主義路線の違いなどから、ベトナムはソ連寄りへ傾斜し始め、中国はベトナムの動向に神経を失らせるようになります。

1976年、南北統一のベトナム社会主義共和国が成立。国内の経済や農業が大きく低迷していたベトナム政府は、1978年に社会主義経済の徹底と、農業の集団化を促進させる政策を打ち出しました。このために、ベトナムの商業活動に大きく関わっていた中国系華僑が打撃をうけて脱出し始める。『ポトピープル』が生まれ、中国は

ベトナムに対して、政治的、軍事的な恫喝を展開したのです。危機感を抱いたベトナムは、ソ連と「ソ越友好協力条約」を結んだ後、親中派ポル・ポト政権が誕生した隣国カンボジアに侵攻して、親ベトナム政権を樹立させました。地域大国とみなされがちなベトナムにとって、危険な行動でした。この機をとらえた中国は米中外交関係を樹立させておいてから、大軍をベトナム国境に集結させ、1979年2月17日、ベトナム国北部に侵略を開始したのです。

戦況は中国軍の大苦戦です。装備や戦法が古いうえに、文化大革命の影響で兵士の階級を廃止したために命令指揮系統が混乱しました。ベトナム軍は、世界最強の米軍を相手に勝利を勝ち取り、ゲリラ戦法のように豊富な戦闘経験を積み、武器も米軍のものを多く利用していたので士気装備ともに中国軍を上回っていたのです。しかし要衝ランソン失陥でハノイが危ないとみたソ連側が介入の動きをみせはじめると、中国は「懲罰」行動は終わったとして、さつさと撤兵しました。しかし、ベトナムから撤退する際、北の占領地域を「徹底的に破壊」していったので、その後のベトナムの復興に大打撃を与えたのです。いま、南シナ海諸島の問題が未解決のまま、中国とは現実的な貿易・経済面で深まってきたベトナムですが、一時も気を許してはいけません。

〈参考資料〉筆者が以前に入手した中国の地図には、南シナ海ほとんどの領海が中国領にされています。左（西）にベトナム、右（東）にフィリピン。『中華人民共和国分省地図集』（1992年10月第5版、新華書店上海発行）（山内）



「事務局からのお知らせ」  
（入会説明会・審査会）  
令和5年4月16日から7月15日までの予定です。

月日	時刻	場所
5月11日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室
6月8日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室
7月13日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室

**【表紙の説明】**  
中央は、本誌の冬季剪定講習会に参加した講師、会員たちの集合写真です。周辺4枚の写真は各講師が活躍中の場面です。

ニコンD7000  
17～50mm F2.8 オート